

21世紀の文化遺産展

大型仏画を復元模写

能代市文化会館 迫力ある力作に感心

「21世紀の文化遺産展」と銘打ち、原図が国宝に指定されている「阿弥陀聖衆来迎図」「釈迦金棺出現図」など大型仏画の復元模写を披露する展示会が、能代市文化会館中ホールで開かれている。訪れた市民らは色鮮やかに復元された仏画の出

来栄えに感心し、東日本大震災や日本海中部地震の犠牲者への鎮魂の思いを感じ取っていた。21日まで。同市民有志らでつくる「日本一大きな仏画展示実行委員会（腰山敏夫実行委員長）主催。日本仏教画の貴重な原図を復元する活動をしている金子環さん（東京都中野区）がネパールのラ



「阿弥陀聖衆来迎図」など大型仏画の復元模写作品を展示

マ僧の仏師とともに約40年かけて仕上げた復元模写作品を展示した。金子さんは曼荼羅（まんだら）に関心があったものの原図はなかなか見られないと知り、資料からトレーシングペーパーに写し取ること数年。ネパールに絵師を見つけると日本から顔料や筆などを持ち込み、筆の運びや描線の

描き方などを絵師たちに教えることから始め、15年かけ両界曼荼羅図、胎蔵界曼荼羅図、金剛界曼荼羅図を復元した。その完成後、2001年にアメリカ同時多発テロ事件が発生。鎮魂の思いから「阿弥陀聖衆来迎図」「釈迦金棺出現図」「涅槃図」の復元に取り掛かり、2023年に完成。制作途中の2011年、自身の誕生日に東日本大震災が発生、行方不明のままの人への祈りを込め、制作を続けたという。展示のうち、「阿弥陀聖衆来迎図」と「釈迦金棺出現図」「涅槃図」（2作品）の復元模写は今回が初公開。「阿弥陀聖衆来迎図」の転写復元作品（縦285センチ、横490センチ）は、阿弥陀如来や従えた聖衆の表情やしぐさ、紫雲、さざ波も色美しく細やかに再現。国宝の原図は3幅に分けられているが、1枚の絵にしており、描かれた当時の雄大な構図や荘厳さを感じさせている。このほか、縦・横とも約5倍という両界曼荼羅図などの復元図も展示。その大

きさと細密さの迫力に圧倒されるように見入る人の姿があった。

金子さんは来年1月に仙台市で展示を予定し、「ここ（能代）を起点に、仙台から北へ向かいたい」と東北各地で大型仏画を披露したい考え。東日本大震災の被災者で、今展の実現に尽力した渡邊健さん（宮城県多賀

城市）とともに石巻市内の寺院に縮小プリントしたものを寄贈。8月には、日本海中部地震で津波の犠牲になった旧合川南小（北秋田市）児童の冥福を祈り、「道の駅おが」へ「阿弥陀聖衆来迎図」の復元図など3作品のレプリカを贈る予定。時間は午前10時～午後5時。入場無料。